

コトバカっ!



コトバカ
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカルっ!

シヨク語の快樂

食べ物に関する言葉をたくさん知っているのと楽しいし豊かだと思っけど、それは余裕のある時のみ。お腹がすいてもうダメーっていう緊急時にフランス語のメニュー名なんて思い出せない。行き着くところはパン、ミス、メシ、サケといったシンプルなカテゴリーワードだ。

たとえば友達と待ち合わせて、さあごはんを食べようというのに、お店や方針が決まっていけない場合。二人ともめっちゃ空腹だったりすると、会話はかなりせつかちで雑なものになる。「二クにするスシにする? ソバもいいね。それともナベ? ヒザ?」とかそんな感じ。何でもいから早く食べさせてという状況に、二文字ワードはフィットするのだ。いや、よく考えると、店に入って食べて飲んでけっこう満足して、さあ最後にどうしようという時にも「シメはメン? コメ?」などと言ったりするから、二文字ワードと空腹度はあまり関係ないかもしれない。短い言葉はラクだから、いったん使い始めると元に戻れなくなるのだろう。

ただし侮れない二文字もある。タコ、イカ、カニ、ウニ、カキなどは発音している分には可愛いけど「蛸、烏賊、蟹、海胆、牡蠣」とメニューにでっかく筆書きされていると本気でこわい。魚介類ワードは要注意です。

最近では、二文字ワードで気取らずにワインを楽しむ人も増えた。飲み会の席で、シャンパーニュとかスパークリングワインとかシャルドネとかカベルネソーヴィニオンなんて言葉はいささかまどろっこしい。「アワとシロとアカ、どれ?」で決まりだ。

先日、今はやりの「激安立ち飲みビストロ」へ行ったら、グラスになみなみとこぼれるほどワインを注いでくれた。もはやワインというより日本酒みたいで、優雅にグラスをまわしたりしている人は誰もいない。っていうか、まわせない。グラスを置いたまま、口を近づけてすするとするしかないじゃんコレ。味わいについても「ブルーティーな香りで……」と上品にコメントする前に、とりあえず「うめー!」って叫ぶのが正解です。

相川藍(言葉家)

丸の内文学賞(大賞)、朝日広告賞(最高賞)、インターネット書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。